

# 〈マルサス型結婚〉が 歴史事実であるとマズイか？

MacFarlane, *Marriage and Love in England*.

Chapter 08残り-09途中

鈴木繁夫

名古屋大学国際言語文化研究科

# 「愛がなければ結婚していることにならない」

- イングランド人は、いつも夫婦で一緒にいる。
- イングランドでは、夫婦間での共鳴が強調された。
- 結婚の理想的プロセス→〈恋愛結婚〉

# 男性から見た、理想的な妻像

- A WIFE.
- A wife made all of wives, and compounded
- Of choice ingredients, both for mind and blood.
- A maid, yet willing to become a mother ;
- Young yet full ripe ; a fair one, and yet black,
- The white side turned to me, black unto others,
- Silent, yet one that no good tongue doth lack ;
- Rich only to contentment, not to excess;
- Holy, driving with love her faith to express;
- Wise, not to teach, but her own wants to know ;
- Well-born, yet not so high to set me low.
- Such whilst I fancied to myself a wife,
- Friend, I do hear you have her to the life.

# 愛以外の動機からの結婚

- 金銭目当ての結婚への糾弾と警告
  - Piers Plowman以来、続く指摘
  - 寡婦は金で若い男を釣って結婚する
- 高貴な家系への願望
- 心理軸と経済軸との拮抗とバランス→男女はそれぞれ結婚という市場の商品となる。
  - 出会いの場所: 教会、芝居小屋
  - 商品としてもつ不適切さ:
    - (1)裸にして鑑定できない
    - (2)返品できない。

# 金銭から考える結婚

- Joe Miller's complete jest book - 69 ページ(1859)
- Speaking of the depravity of the age, ' almost all houses,' he said, ' were made ale-houses ; that **men made matrimony a matter of money** ; and placed their paradise in a pair of dice : Was it so in the days of Noah?

しかし20世紀になると

- Nowadays love is a matter of chance, **matrimony a matter of money** and divorce a matter of course.
  - RelationshipsQuotations by Helen Rowland

# なぜ結婚するのか？

- 孤独感
- 結婚は人工的制度
  - 同居し続けようとする動機
  - 離婚できないという束縛
- 人工が自然となる
  - 人間生活のなかで一番深い絆を産む
  - 一度の決断が血族と身分とを変えてしまう
  - 自分で自分の運命を決定する

# ロマンチックな愛

- 人類学的には結婚の基本は親子関係。夫婦関係ではない。
- マルサス型結婚：夫婦関係の基本とするロマンティックな愛
  - 子供を産む必要がない
- 愛はどこから産まれるか？（David Hume）
- (1)美に触発される喜びの感覚 (2)産みたいという肉体的欲望 (3)親切と善意
- 産まれた愛は、友情と向上へ高めようとする意志となる（Addison and Steele）
  - 夫は妻を愛する義務がある。そしてその愛は本物でなくてはならない。
  - 妻は苦楽を共にする同胞・友人。夫は妻を保護する。

# ロマンチックな愛の起源

- [Bartholomaeus Anglicus](#) (13世紀神学者)にまでさかのぼる。
- (1)結婚によって成立した関係は、他のすべての関係に優先する
- (2)絶対に互いに尽くし合う共同体
- 文学作品の中でこの二点が強調される。